

## ■ 全体講評

午後Ⅰ記述式問題では、問1以外の解答率は高いという状況を根拠に、学習が予定どおりの進捗である受講生が多いと判断します。

問1は、計算における条件の見落としが多かったようです。4問中、最低の選択率と正答率という状況です。

問2は、選択率の高い問題でした。高得点者と低得点者に明確な差が生じるという状況です。

問3は平成19年秋のアプリケーションエンジニア試験の本試験問題で、選択率の高い問題です。得点については30点台から40点台まで平準化しているという状況です。

問4は組込みシステム分野からの出題です。本試験では、比較的難易度の低い問題が出題される傾向がありますが、今後、難易度が上昇する余地があるので、本試験で選択する際には、注意が必要です。選択率は低いです。正答率は高いという状況です。

採点して気付いた点を次に説明します。

### ①キーワードやキーセンテンスを意識して解答を書く

本試験では複数の採点者が午後Ⅰを採点します。その場合、採点基準が作成されますが、公平に採点するために、キーワードを含むか否かで採点するケースが多いと考えるのが妥当でしょう。その結果、内容が合っても得点できない解答もあります。解答に盛り込むキーワードを意識して解答を書くようにしましょう。

なお、各問題の設問のキーワードについて留意するものがある場合は、講評や採点基準に明記しています。

### ②設問の条件を満足する解答を導く

設問の条件を満足しない解答は部分点もないと考えてください。特に「～の観点から」は注意しましょう。

### ③問題文にある漢字を間違った字で解答欄に書かない 論述式問題でも同じです。

### ④略字を書かない

年に1度の試験です。慎重に解答を書くようにしてください。門構えなどを略さないようにしましょう。

### ⑤問題を適切に選択する

選択の漏れ、点数記入欄に○を記入している解答者がいます。選択漏れ、選択方法に誤りがないように、しっかりと問題冊子をチェックしましょう。

「解答へのキーワードの盛り込み」の重要性を実感してもらうために、採点基準を厳しく設定して採点してい

ます。おおむね内容が正解例と合っているのに得点できていない解答については、採点基準と解答を照らし合わせて改善点を確認してください。

次に午後Ⅰ記述式問題の各問についての講評、設問を絞り込んだ講評、及び採点基準について説明します。

## ■ 問題ごとの講評と採点基準

### 問1 Web 受注システムの基盤設計

#### 【講評】

自分の書いた解答の趣旨が正解と合っているにもかかわらず、得点できていないことがあります。そのようなケースを回避するためには、書こうとする解答に関連するキーワードやキーセンテンスが問題文にないかを確認することが重要です。もし、関連するキーワードがあれば、それを使って解答を作成します。

例えば設問3(1)では、〔可用性要件〕に「2台以上用意する冗長構成を採用」と記述していることから、「可用性要件の満足」という解答を導きます。また、設問3(2)では、〔可用性要件の見極め〕にある「運用性を向上させるためにサーバ数を減らしてほしい」という記述から「運用性が向上する」という解答を導きます。

#### 【採点基準】

##### 〔設問1〕

解答例と同じとき各5点、その他は、基本的に0点としました。

##### 〔設問2〕

解答例と同じとき各4点、その他は、基本的に0点としました。

##### 〔設問3〕

(1)「可用性要件」を必須とし、解答例と同様の趣旨であれば8点、その他は、基本的に0点としました。

(2)「運用性の向上」を必須とし、解答例と同様の趣旨であれば8点、その他は、基本的に0点としました。

##### 〔設問4〕

(1)「システムの限界」、「達成した性能要件」と必須とし、解答例と同様の趣旨であれば8点、その他は、基本的に0点としました。

(2) 解答例と同様の趣旨であれば8点、その他は、基本的に0点としました。なお、「8時間前」という記述がない解答については4点としました。

## 問2 配送管理システムの設計

### 【講評】

問題文の展開に沿って解答を導くようにしてください。設問1(1)の空欄bあるいは空欄c,更に空欄dでは、「配送開始日」が正解になります。表の項目番号⑥の記述から、受付日の翌々と配送開始日は同じであることが分かります。したがって、空欄bあるいは空欄c,加えて空欄dについては、「受付日の翌々日」も解答として導くことができます。

しかし、表の項目番号⑥の記述があるので、それ以降の記述は、「配送開始日」だけを使うと考えてください。「配送開始日」については、厳しいですが、「受付日の翌々日」という別解はなしとしました。

考えた解答がうまく当てはまらない場合は、解答すべき箇所が間違っていると考える方法も効果的です。設問1(3)空欄f,gは件数、空欄h,i,jはサイズに関する穴埋めです。これを逆にしまい、空欄f,gはサイズ、空欄h,i,jは件数に関する穴埋めと考えた解答が多くありました。空欄f,gの間の記号に等号がない点が、正解を導くポイントになります。このように、「解答すべき箇所を入れ替えたりするとうまく当てはまることはないか」という確認が効果的の場合もあります。

### 【採点基準】

#### 【設問1】

- (1) 解答例と同じとき3点,その他は,基本的に0点としました。
- (2) 解答例と同じとき各3点,その他は,基本的に0点としました。
- (3) 解答例と同じとき各3点,その他は,基本的に0点としました。

#### 【設問2】

「郵便番号別・配送可能日別業者クラス」を必須とし、解答例と同様の趣旨であれば8点,その他は,基本的に0点としました。

#### 【設問3】

- (1) 解答例と同じとき4点,その他は,基本的に0点としました。
- (2) 解答例と同じとき4点,その他は,基本的に0点としました。

#### 【設問4】

- (1) 解答例と同じとき4点,その他は,基本的に0点としました。

## 問3 顧客管理支援システムの設計

### 【講評】

高得点するためには、問題文の詳細度に合わせて解答

を作成することが重要です。具体的には、設問3において、「重点区分と重点区分変更日を更新する」という解答がありました。これでは、高得点できません。なぜならば、[業務終了後のテーブル更新処理の設計内容]の(2)③に「重点区分が“重点”の場合は、該当の顧客付加レコードの重点区分を“通常”とし、重点区分変更日を本日とする更新を行う」と書かれているため、このレベルに合わせて解答を記述することで満点が得られるからです。

### 【採点基準】

#### 【設問1】

解答例と同じとき各3点,その他は,基本的に0点としました。

#### 【設問2】

解答例と同じとき5点,その他は,基本的に0点としました。

#### 【設問3】

解答例と同様の趣旨であれば6点,その他は,基本的に0点としました。ただし、「重点区分が“通常”の場合」のない解答は3点としました。

#### 【設問4】

- (1) 解答例と同じとき各2点,その他は,基本的に0点としました。
- (2) 解答例と同様の趣旨であれば各3点,その他は,基本的に0点としました。

#### 【設問5】

解答例と同じとき各3点,その他は,基本的に0点としました。

## 問4 ハンディナビゲーションシステムの分析

### 【講評】

問題文にキーワードがないかを確認してから、穴埋め問題の解答を書き込みましょう。設問5の空欄eと空欄fの正答率が低いです。問題文の前半部分である[製品概要]の(4)と(5)に、正解となるキーワードが書かれています。したがって、空欄部分とキーワードが書かれている部分が離れていることが正答率の低い原因の一つと考えられます。設問の後半で問題文の前半部分の記述にヒントのある設問構成は、本番試験でも採用するケースがあります。最後の設問を解く際には、この点に留意しましょう。

### 【採点基準】

#### 【設問1】

- (1) 解答例と同じとき各3点,その他は,基本的に0点としました。

(2) 解答例と同様の趣旨であれば 7 点, その他は, 基本的に 0 点としました。

**[設問2]**

解答例と同様の趣旨であれば 4 点, その他は, 基本的に 0 点としました。

**[設問3]**

(1) 解答例と同様の趣旨であれば 7 点, その他は, 基本的に 0 点としました。

(2) 解答例と同様の趣旨であれば 4 点, その他は, 基本的に 0 点としました。

**[設問4]**

解答例と同様の趣旨であれば 7 点, その他は, 基本的に 0 点としました。

**[設問5]**

解答例と同じとき各 3 点, その他は, 基本的に 0 点としました。

**■ 公開模試に向けて**

午前 I・II 多肢選択式問題対策では, テキスト学習を併用しながら, 過去問題を中心に勉強し, 情報技術に関する最新動向に関する専門知識を専門雑誌などから吸収するようにしましょう。

午後 I 記述式問題対策では, 去年の本試験問題, システムアーキテクト試験に該当するアプリケーションエンジニア試験の過去問題に加えて, ソフトウェア開発技術者試験や応用情報技術者試験の午後 I の過去問題についても, 演習時間を決めて演習するとよいでしょう。

午後 II 論述式問題対策では, 設問アで述べた内容を踏まえて設問イやウで論旨展開する方法, 工夫や能力のアピール方法をテキストなどで確認して, 論文における実務経験や専門知識の活用方法を身に付けるとよいでしょう。問題によっては, 設問アで対象業務の特徴を明示して, 設問イやウで「～という対象業務の特徴を踏まえて」と書くことで, 論旨展開の一貫性をアピールすることができます。

なお, 解答用紙に, 設問ア, 設問イ, 設問ウをどこから論述開始するかについて明確な指示があります。試験開始までの空き時間に, 問題冊子の注意事項とともに, 解答用紙の各ページの注意事項を確認して論述を開始するようにしましょう。

—以上—